

熊本市 車中泊避難者支援ガイドライン  
(概要編)

【くまもとモデル】

車中泊避難者支援ガイドライン

熊本市

# 【くまもとモデル】車中泊避難ガイドライン

令和6年6月、中央防災会議における防災基本計画の修正に伴い、車中泊避難者等の支援方策を検討することが定められ、あわせて「在宅・車中泊避難者等の支援の手引き」が策定・公表されました。

これを踏まえ熊本市は令和7年5月、熊本市地域防災計画を修正し車中泊避難者への支援を明記しました。同時に支援のあり方を検討し、「在宅・車中泊避難者等の支援の手引き(内閣府)」に則り熊本市の実状を踏まえた「熊本市車中泊避難者支援ガイドライン」(【くまもとモデル】車中泊避難ガイドライン)を策定しました。

## 熊本市 車中泊避難者支援ガイドラインの基本方針

□災害時の避難は指定緊急避難場所を基本とする

やむを得ず車中泊避難を行う場合は、市が指定する車中泊避難場所(以下、「車中泊避難場所」という。)で行う

□車中泊避難場所は震度6弱以上の場合、もしくは災害対策本部長が指示する場合に開設する

□車中泊避難場所の開設期間は7日間を目途とする

□車中泊避難場所に担当職員や事前の避難所運営委員会は設置しない。避難者による自主運営を基本とする。

□車中泊避難場所への物資や健康観察等の支援を行なう

□平時より車中泊避難について場所やリスク周知を含め広報活動を行う

車中泊避難者支援の＜目的＞

＜災害関連死を防ぐ＞



【くまもとモデル】車中泊避難ガイドラインの特徴

- ①避難者による自主運営と車中泊避難支援システムでサポート
- ②車中泊避難専用トリアージマニュアル
- ③官民連携によるシステムを活用した車中泊避難の運営
- ④平時から自助力向上のための告知活動

# ①避難者による自主運営を車中泊避難支援システムでサポート

車中泊避難場所での避難生活は避難者同士での協力による自主運営になります。市は物資や健康関連の支援を行います。特にエコノミッククラス症候群などの災害関連死を防ぐために、出来る限り日常と同じ生活をおくれるよう車中泊避難支援システム（以下、「システム」という。）で避難生活をサポートします。

## ①避難者による自主運営を車中泊避難支援システムでサポート



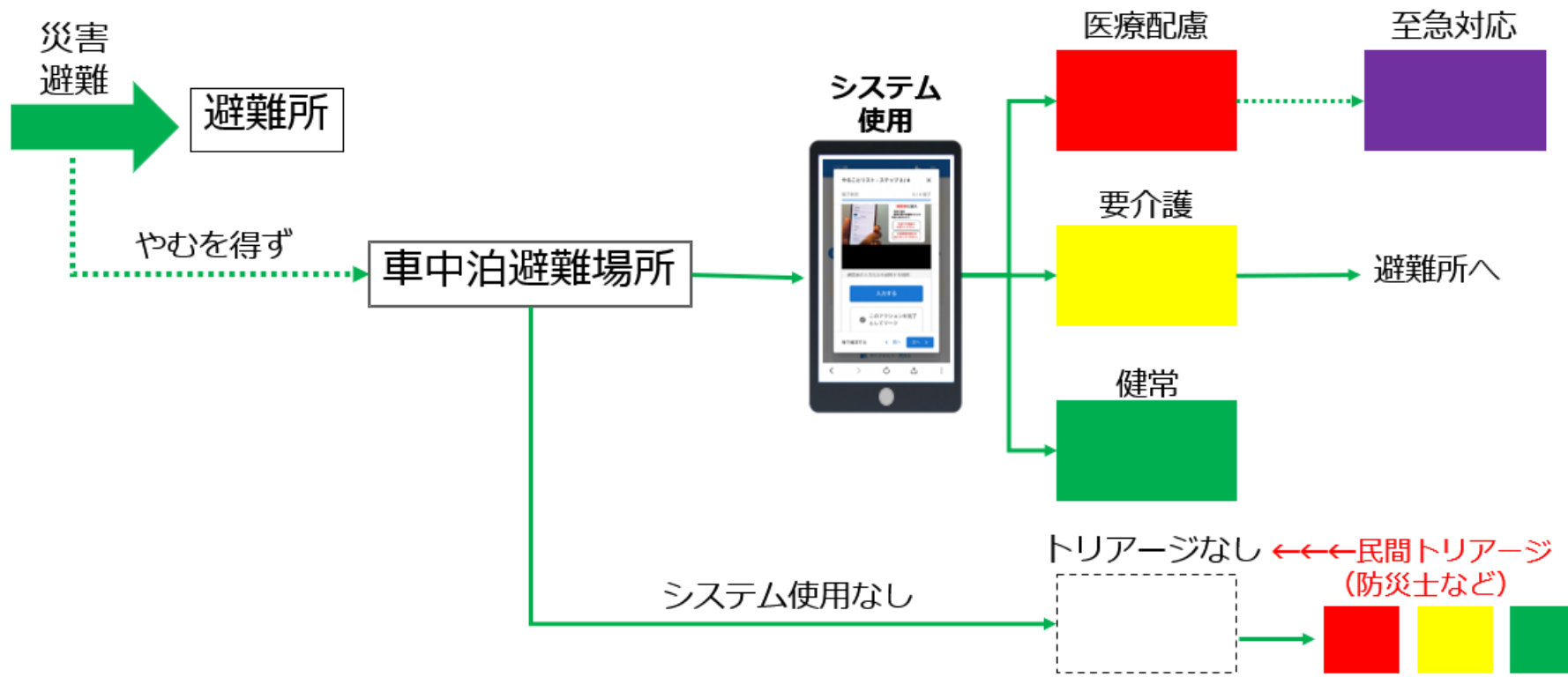
- 受付、調査票、関係部局への情報共有、避難生活サポート、までシステム化
- マニュアルを動画で分かりやすく発信し、同時に「避難生活やる事リスト」と合わせて生活を誘導
- 健康問題の高リスク者のスクリーニング（トリアージ）と保健師等による迅速な対応

車中泊避難場所は「避難者による自主運営」を基本とし、避難者のみで運営を行なう負担を軽減するため、受動的にシステムで避難者が避難生活行動をできるようにサポートを行います。

## ②車中泊避難専用トリアージマニュアル

車中泊避難の主な課題は健康問題です。エコノミークラス症候群などの健康問題のリスクが高い避難者をスクリーニングし迅速な対応を行うために、車中泊避難している「車両」をトリアージします。保健師などの健康観察をトリアージした高リスク者から適切な対応を行います。

### ②車中泊避難専用トリアージマニュアル

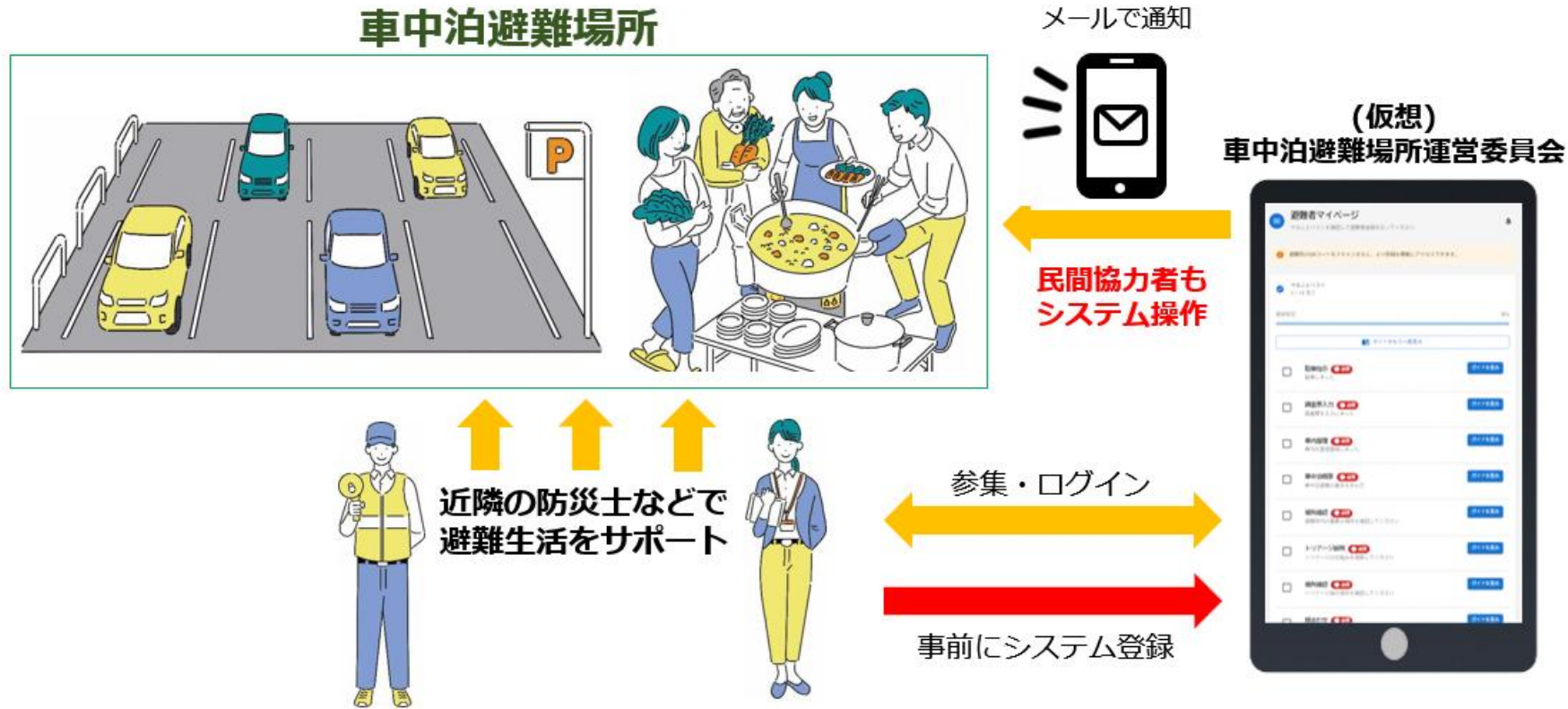


- 車中泊避難者をシステム調査票から医療配慮・要介護(既往症など)の状態でもトリアージ。
- システム操作出来ない避難者のトリアージ
- 医療配慮者のトリアージをより細分化、早急に対応を要する避難者の抽出
- 避難者情報(避難台数・避難者数・トリアージ分布など)を保健師などとの共有
- システムによる車中泊避難場所のスクリーニング(高リスク者の比率など)
- 平時から車中泊避難時の自分自身や家族のトリアージの準備

# ③官民連携によるシステムを活用した車中泊避難の運営

車中泊避難場所は避難者による自主運営となり、システムで運営をサポートします。  
車中泊避難場所においても、人的支援がある方が避難者の安全を確保できます。そこで、周辺の民間協力者(防災士など)を事前に募り、災害時には集まることが出来た民間協力者にて、システムを活用した車中泊避難運営を実施します。

## ③官民連携によるシステムを活用した車中泊避難の運営



- 車中泊避難場所の周辺の民間(防災士・ボランティアなど)との事前連携
- システムの操作権限の一部委譲(民間協力者によるシステム操作を可能とする)
- 協力してメールによる呼びかけやトリアージの確認、登録サポートを行う
- 平時から防災訓練を行い連携を深める
- 防災訓練では実際にシステムを活用し、参集、トリアージ、メール配信等を行う

## ④平時からの自助力向上のための告知活動

車中泊避難場所は、避難者同士の協力による自主運営が基本となります。  
そのため、車中泊避難においても、平時からの備えが大切で、市民一人ひとりの自助力向上のために  
車中泊避難に関する広報活動を行うことが大切です。

- 車中泊避難場所の周知
- 車中泊避難のリスクを伝える
- 事前にシステムを使用し自分(家族など含む)のトリアージを行い  
車内にトリアージシートを用意しておくことを推奨する

市民にしっかり見てもらうために

- ・事前マニュアルを動画で説明
- ・各種広報媒体を使った車中泊避難に関する情報発信

車中泊避難訓練など発信(イメージ)



# 謝辞

車中泊避難者支援ガイドライン及び車中泊避難マニュアルを作成するにあたり、下記の皆様、関係機関よりご協力を賜りました。

ご芳名を記して、厚くお礼申し上げます(敬称略)。

- ・株式会社明電舎
- ・一般財団法人 熊本市文化スポーツ財団(アクアドームくまもと)の皆様
- ・令和7年度車中泊避難実証実験にご参加いただいた防災士の皆様
- ・令和7年度車中泊避難実証実験にご協力いただいた皆様

「災害時の車中泊避難等の課題解決に向けた研究に関する連携協定」における3者(崇城大学、Bosai Tech株式会社、熊本市)で検討した結果を記載した。